

間瀬海岸に自然の驚異を知る

# 奇岩・怪石発見 ウオーキング

長い自由を得たキミたちにとって、青い空も、白い波も、そして緑の山もみんなキミたちの自由な時間を演出してくれるパートナーだ。もうステキな感動に出会える夏休みの計画はバッチリだろうか。

この夏は、思い切り自分の足で歩いてみないか？ 奇岩・怪石さがしに、昆虫さがし、自然の神秘を求めて、あるいは野鳥に会いに……。額に汗して出会った事実は、雑誌や事典とは違った感動をきつと教えてくれるはず。

今号では、親と子の夏休み特集として、間瀬海岸奇岩・怪石発見のガイドをしよう。

県道白根間瀬線を通って間瀬に入ると、すぐ目の前に日本海が広がる。佐渡が島が泳いで渡れるのじやないかと思えるほど近くに見えます。海岸沿いに県営有料道路・越後七浦シーサイドラインが走り、この有料道路自体が絶好のハイキングコースになっています。それでは、間瀬海岸の奇岩・怪石発見のウオーキングに出ましようか。

●間瀬海岸のシンボルともなっている白岩。凝灰岩(ぎょうかいがん)でできている岩で、海へ約100メートル突き出た文字どおり白い岩です。この付近の粘土を使って焼き物も作られます。

●間瀬下海水浴場から大谷トンネルを過ぎると、巻町との境界近くにあるのが立岩。海中からヌッと抜き出た感じで立っています。見る方向によってイメージが変わるゆかいな岩です。



護衛艦の船首のような立岩

弥彦浦遊歩道と白岩



[7]

まず最初は、お父さんたちから車に乗せてもらって間瀬下山ゲートを抜け、岩室村と巻町の境界にある立岩付近からスタートしよう。これから先はキミの足がたよりの海岸線ウォークだ。シーサイドラインは歩道が完備されているので安全だし、有料道路といっても歩く場合はもちろんタダだ。ここで、まづ目を引くのが枕状溶岩でできた岩が海中からそそり立つ立岩。高さは二十メートルはあろうか。昔はもつと高かったといわれるが、日本海の荒波に削られてか、だんだん低くなってきたようだ。そして海を右手に見ながら寺泊方向へスタートすると間瀬漁港あたりまでは天然記念物の枕状溶岩一色。じっくり観察するのもいいだろう。さらに進ん

で越後七浦観音のある自然休養村管理センター白岩前から弥彦浦遊歩道へ一回。ここは、間瀬の海岸美のシンボルともいえる白岩があるところ。このほか花立岩や洗足岩など種類の違った岩が次々に目に入る。遊歩道から再びシーサイドライン(田ノ浦)へ戻ると次は崖松、大磯白岩、雄釜・雌釜など数え切れない。そのほか源義経の奥州落ちの伝説にまつわる義経千人隠しや弁

花生けに松を差したような花立岩



## 弁慶岩

●源義経伝説にまつわる岩がこの弁慶岩。義経奥州落ちのとき、追手に向かって弁慶が投げた大岩と伝えられ、大きな岩が不安定そうにのっています。

## 花立岩

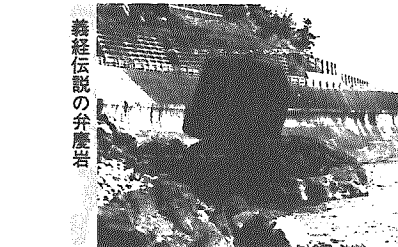
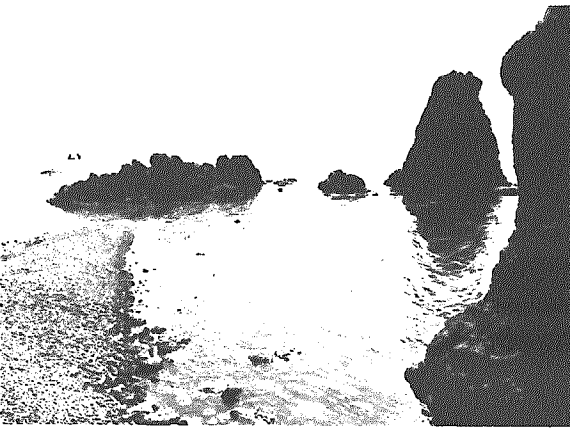
●広報61年9月1日号でもご紹介した花立岩。岩全体を花生けにみたて、そこに松を差したような感じから名づけられた岩です。自然休養村管理センター白岩から遊歩道を通って約3分のところにあります。

慶岩など歴史的なものや二頭の獅子が海に向かってほえている姿に似ているところから名付けられたといわれる獅子ガ鼻など奇岩・怪石が多い。キミもこのウオークを通じて何かに似た岩を新しく発見しよう。きつと自然の力強さ、神秘さを感じるはずだ……。



## 間瀬

●間瀬海岸を行けば奇岩、怪石、洞窟がザクザク。自然の神秘に触れ、キミは奇石に何を発見するか。



義経伝説の弁慶岩

